

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100204		
法人名	特定非営利活動法人ひまわり		
事業所名	グループホーム後楽庵	ユニット名	
所在地	宮城県遠田郡涌谷町字刈萱町14		
自己評価作成日	平成21年9月14日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成21年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>定員6名で常時スタッフ2名が勤務しており、1人1人に目、手が行き渡るように心掛けている。特に夜勤の2人体制は開所時より継続している。夜勤者を2人にする事で就寝前の入浴も可能で在宅時と変わらない生活をする事ができている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設から9年目を迎えた利用者6名の事業所である。法人経営であるが、開設当初から職員たちは、家族会や地域の人達、町の担当者等の協力を得ながら、ほぼ全面的に事業所の自主運営に取り組んでいる。夜勤を二人体制にしていることで職員の負担を軽減し、就寝前の入浴を可能にしている。隣接する同法人のデイサービスとの連携が密に行われ、利用者は日常的に行き来し、昼食は毎日デイサービスで作られたものが提供されている。利用者や職員の表情は明るく、会話も多くゆったりと過ごしている様子が見て取れる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム後楽庵)「ユニット名 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつも目に付く場所に掲示している。スタッフ会議で再確認している。	職員で話し合い、法人の理念を基に分かりやすく、簡潔な文章を作り、掲示してスタッフ会議で再確認して共有しているが、地域との関係性を考慮したものになっていない。	作り直した理念は基の理念にうたっている「地域性」の部分が活かされていないので、更に見直し地域生活の継続等「地域性」を加味したものになるようにして頂きたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等行事へのお誘いや地域の行事への参加また、相互に協力し合っている。	町内会に加入して、町内清掃への協力、又隣の小学校の運動会に招待されたり、町の文化祭への作品出品、保育園児との交流などが行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	涌谷町の取り組みの一環として協力員をし、貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者メンバー全員で意見や質問・要望などを言い合える場を提供し、サービス向上に活かしている。年6回以上の開催には至っていない。	平成21年3月に第一回を開催して以来開かれていない。事業所としては、参加メンバーの人数や議題を何にするか、町担当者の参加予定回数などを考慮すると年六回の開催は難しいとしている。	まずは事業所をよく知ってもらう事を目標に町の担当者等の協力を得て、年六回は開催して頂きたい。外部評価は会議の良い話題提供になると思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	合同研修や必要に応じて相談や話し合いを持つなど良好な関係を築けている。	給付関連の連絡や認定の申請の他、地域包括支援センターの職員も度々様子を見に訪れるなど、協力関係は築けている。また、町主催の同業種、異業種間の各種合同研修会に積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。	日中施錠はしていない。近くの保育園や商店、隣のデイサービスの方達にも声かけや、見守りをして頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	町主催の合同研修に参加し、学ぶ機会を設け虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会を持っているが個々の必要性はなく活用するには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時の説明により理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が職員に気軽に相談できる関係を築けている。(家族会を開催している)	家族会があり、夏祭りやバーベキューなど主に季節の行事や大掃除を職員と一緒にしている。また、家族会からユニット増の話題や、「バザーを開こう」などの提案が寄せられ、スタッフ会議で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言える環境をつくっている。	検温の仕方などで結果にばらつきがあることの改善策やトイレの介助方法の工夫など、職員の日常の支援の中での気づきやアイデアをスタッフ会議の場で検討し実際の介護に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいが持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を作り、日々の勤務でも指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の各事業所との交流を持ち勉強会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い耳を傾け安心できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントの段階で家族が困っていること、不安や要望に耳を傾け共に本人を支えていく関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談時に見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の特技や好きなこと、生活背景を考慮しながら互いに支えあえるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族だからできること・家族にしかできないことを本人の状況とともに伝え、役割を持っていただきともに支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理、美容院の利用や娘のところへの外泊の継続、手紙や電話のやり取りの支援をしている。	出張美容院の利用や、利用者の家族や知人の来訪時にはお茶の接待をしたり、童謡の会などのサークル活動、町の敬老会への参加などを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、スタッフの介入が必要な時などには、さりげなく中に入り、関係がうまくいくように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事の際、参加のお誘いをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向などを日々の会話の中から引き出し把握する。	利用者の今現在の思いや希望を大切に、すぐ実行するように心がけている。また、家族の希望等は面会時に聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より生活歴を伺い、また、自宅(自室)に訪問するなどしてこれまでの暮らしを把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時でも心身の状態やできることは違うと考えている。現状をしっかりと見極めるように勤めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	それぞれの立場からの意見を反映し、計画を作成している。	個別の介護計画書を作成している。利用者本人の状況の変化や、家族の希望、意見を聴き随時計画の見直しをし、期間を決めての見直しを年二回以上行っている。また、同意も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	重要な部分にはラインを引くなどし情報を共有し、必要に応じて介護計画への見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の通院・外出・外泊など、家族と協力し、柔軟に支援している。また、空室がある場合に限り短期入所も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアやサークル団体の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に同行や、書面での伝達などを行っている。	かかりつけ医への受診は家族の付き添いが基本であるが、必要と判断した時は職員も同行する。医師への利用者の状況説明は書面で行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一日に2回のバイタルチェックの実施のほか、心身の観察などを行い、変化や異常があれば看護師に報告し指示をあおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院や退院時にはサマリーを提供しあい、また、退院に当たっては医療機関へ訪問し、家族と一緒に退院後の生活についての情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	アセスメントの段階で家族が困っていること、不安や要望に耳を傾け共に本人を支えていく関係作りに努めている。	重度化した場合、或いは終末期の対応について、入居当初より家族と話しあっている。事業所として「できること」、「できないこと」を家族に伝えているが、文書化はしていない。	現在は終末期に対応できる環境にはないので、事業所として「できること」「できないこと」を文書化して、利用者及び家族との共有を図り、いずれは「意思確認書」の作成も必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを導入し指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は今年度はまだできていないが、消火器など設備の定期点検を実施しており、非常用食料や備品などを準備している。	マニュアルは備えてあるが、昨年度、今年度と防災・避難訓練は行われていない。避難路の確保、非常用備蓄はなされている。	運営推進会議等で地域住民と話し合うなどして協力を得て、防災・避難訓練について早急に計画を立て、夜間想定を含む訓練を最低でも年二回は実行して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活背景を理解し、それぞれにあった言葉かけや支援を行っている。(呼称、トイレ介助時など)	呼びかけは本人の望むようにしており、職員は穏やかな態度、声かけで利用者に接している。職員の言葉遣いが丁寧で感心していると家族アンケートに書かれていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、食べたいもの、行きたい場所、やりたいこと、やりたくないことの希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	取り決めはなく、柔軟な対応はできている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なじみの理美容院へ行ったり、洋服を選んだり、鏡を見て身だしなみの確認ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何にしたら良いかを一緒に考えたり、また、畑で自ら収穫したものを材料に献立を考えたり、野菜の下ごしらえ、米研ぎ、味見、盛り付けなどできることを行ってもらっている。スタッフも一緒に食べて楽しんでいる。	三食のうち昼食は隣接する同法人のデイサービスで作ったものが提供されている。利用者全員と職員は一つのテーブルを囲み必要な方は介助を受け、談笑しながらの食事である。季節の行事食も提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分量は一人一人記録し、状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやうがい、義歯洗浄、濡れガーゼでのふき取りなど本人の力に応じたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを個々に把握している。排泄パターンに沿って個別誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	入居時オムツをしていた方も、職員の適切な声かけでトイレでの排泄ができるようになり、笑顔がもどったと家族アンケートに感謝の言葉があった。利用者の尊厳の回復に繋がったことを評価したい。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、それを本人にも伝え、散歩や飲食物により便秘を軽減できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるように支援し、希望によって入らない日、シャワー浴の日など柔軟に対応している。	午後七時頃から毎日入浴できる。夜勤者が二名なので全員が就寝前に入浴している。入浴を拒む方はいない。職員の発案で菖蒲湯やゆず湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の時間や就寝時間など決まりごととは作らず、本人の状態や意向にて休息している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は処方箋により薬の目的や副作用、用法や用量について理解し服薬支援し、個々に薬箱を用意し、間違いなく服薬支援できるよう努めている。症状の変化があれば記録し指示を仰ぐようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩やドライブなど、希望に添えるように支援している。歩行困難な方は、車椅子で庭や畑へ出かけるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど希望に添えるように支援している。歩行困難な方は車椅子で庭や畑へ出かけられるように支援している。家族の協力も得ている。	樹木の多いかなり広い庭があるので日常、比較的安全に散策ができる。希望によって、気晴らしに家族のもとに泊まりに行くなど、特別な外出にも柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持っている方、こちらで預かり管理している方、家族がすべて管理している方など、一人一人の希望や力に即した支援をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物のお礼など家族と会話できる機会を作っている。手紙も写真などを添えてやり取りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や飾り、鳥の声などで季節を感じられるように配慮している。カーテンや簾で日差しの調節をしている。居室や共用空間には温度計を設置している。食事の時にはテレビを消している。	木造の民家を利用しているため、換気は自然に行われていると思われる。ソファの位置などを工夫して居心地よく過ごせるように配慮している。また、時計や暦の配置は適切である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の状況に合わせた居場所作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には新しいものを準備するのではなく、なるべく馴染みの物を持ってきてもらうようにしている。ベッドと入り口の方向など、今までと同じように設置したりしている。	持ち込み品の多い方も、少ない方もそれぞれに整えられている。床の間付きの和室が居室となっている方は自宅と同じようで、違和感なく過ごせているようだと言っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	築80年の建物を生かしつつ、安全が確保できるような環境作りをしている。居室の表札やトイレの表示など、分かりやすいように明示している。		